

芳賀の史跡めぐり

-11-

天沼の薬師堂

天沼の薬師堂は旧嶺小学校跡地の南側高台にあります。この薬師堂は木造の建物でしたが、昭和四十九年七月に、世話人として池田嘉藤さん他10名が御芳志を募り再建したもので、現在ある4坪程のコンクリート製のお堂になりました。

お堂には高さ60cmぐらいの、白色砂岩でできた石仏が納められています。この石仏は鎌倉時代に行われたようですが、その



薬師堂と石塔群

正確な製作年などは不明です。なお、奉納された鰐口には一八一七年戊子（つちのえね）九月吉日上野国勢多郡嶺村天沼連中と記されていました。現在は失われています。薬師如来の由来は修行中に人の生存をまつとうし、衣食住の生活を安穩にし、病苦不具などを祓う12の大願をたてたところから万病を癒し、ひとの寿命を延ばし医薬をつかさどる仏として早くから信仰されていました。天沼の薬師様は眼病に良いとされ、「め」の文字を100枚書いて奉納すると治ると伝えられ、「百め薬師」とも呼ばれていました。口伝によれば大変偉い人が祀られていて、当時、お堂の前を通る時には、殿様でも馬をおり頭を下げていたそうです。この薬師堂では五月八日と、八月七日にお祭り

があります。特に五月八日には、お釈迦様の誕生を祝うお花祭りが行われます。月遅れのこの時期は、桜の花に代わって藤の花が満開の時、当地では薬師如来像を藤の花で飾り、参拝に来た住民が甘茶を飲み、健康を祈願します。今は小規模に行われている、これらのお祭りですが、かつては屋台が出るなどの賑わいであったと伝えられています。

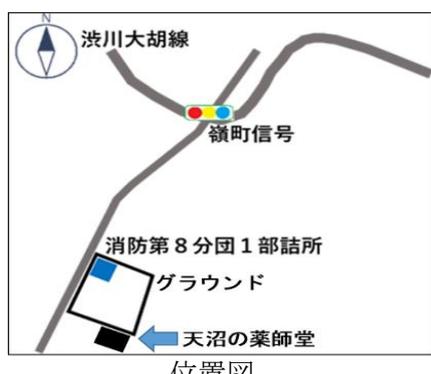
この薬師堂が信仰上重要な場所であったことは、薬師堂の周りに多くの石塔、石碑、石仏が奉納されていることから推察されます。特に立派なのは、薬師堂南正面にある2基の石塔です。この石塔の内、東側にある石塔の台座には、維(？)暦二壬申と刻まれています。この(？)の字は風化が進み判読が難しいのですが、かすかに残る書体や、干支から判断して(？)は審(宝の旧書体)で、この塔は宝暦二年(一七五二)に作られたと思われる。今から260年ほど昔に作ら

れた石塔ですが、この塔の由来などの詳細は明らかではありません。一方、西側の石塔には、當(当)村女人講と記載されており、天保三年壬辰(一八三二)に作られたと判読できません。女人講は江戸時代に女性同士が集まる信仰の場として、各地の農村で行われていましたが、天沼でもこの女人講があったようです。女人講は単に宗教だけでなく、互助や福祉の場でもありました。薬師堂の石塔を作るのには高額の費用が必要だったと思われる。この立派な石塔から、医学の発達していない時代に、病氣や飢饉に悩まされていた女性たちの団結や、信仰心の強かったことを知ることができます。

この他、薬師堂には庚申塚や、馬頭観音などの石碑がありますが、その多

くは江戸時代に奉納されたものです。また、大変味のある面立ちの石仏も多数あります。しかし、これらの石仏のほとんどが土に埋もれ、石塔も地震などで崩れかけているのは残念です。薬師堂の周りにはソメイヨシノが植えられており、春になると、南面の小道からは、満開の桜の花に包まれた薬師堂を仰ぎ見ることが出来ます。

生涯学習奨励員
井上 金治



10月の主な行事予定

- 10月6日(日) 第55回芳賀地区市民運動会 (芳賀公園)
- 10月20日(日) 三世代グラウンドゴルフ大会 (芳賀公園)
- 10月27日(日) 芳賀体協軟式野球大会 (芳賀公園)

